2021年度 全学学生委員会(学生部)【結果】

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
			評価	評価の理由/課題/根拠データ等	
【健康な心身の維持】 不安を持つ学生数20%以下			21.50%	令和3年度学生生活アンケート 7現在の悩み(心や体の健康)	
① 喫煙学生への禁煙支援体制を整え、喫煙率を低下させる。	たばこがもたらす健康リスク(受動喫煙含む)を継続して呼びかけた。キャンパス敷地外・周辺では喫煙行動(路上喫煙・ポイ捨て)しないようB's Linkなどで注意を喚起呼びかけた。ガイダンスや各授業・ゼミ等で全面禁煙であることを周知を依頼し、マナー向上を図った	80%	キャンパス敷地外・周辺での喫煙行動が増加。それに対する職員の方々に注意喚起していただくも構内・構外での喫煙事例も継続して発見され解決には至らなかった。	学生委員会議事録	職員の方々だけの注意喚起では限界があると思われる。検討が必要であると思われる。禁煙のための対策を強化するために、マナー向上といった側面のみならず、防火の面からも、具体的に案を出していく必要がある。
② 新型コロナウイルス等の感染症拡大防止のための啓発をさらに強化する。	リスクの高い昼食時に、教職員が日替わりでアナウンスによる注意喚起を行った。スクールバス内でもアナウンスによる注意喚起を行った。ポスター掲示による注意喚起や新しい情報の提供を行った。コロナウイルス対策として入寮要項を改訂した。	100%	日替わりアナウンス、スクールバスアナウンス、ポスター掲示は全て実施した。昼食巡回も実施したが、意識は高まっているものの、学外での食事の際の黙食は課題。コロナウイルスの感染状況に波があるなかで課外活動の拡大、懇親会等の食事の機会制限撤廃のタイミングについて学生たちから問い合わせがあり、十分な情報提供が必要である。感染時寮生に「一時退避を求めることがあること」を入寮要項に記載した。寮の特性上遠方からの入寮生も多く、実家には高齢者もいらっしゃることで、実行は困難だった。		学外での友人との食事に特化したアプローチが必要。学外において学生たちが感染しているため、感染防止対策の徹底をはかる。対面授業再開に備え、教室内・昼食時などの防止策をより強化する。
③ 新型コロナウイルス感染拡大に伴う相談数の減少を抑えつつも、メンタルサポート体制を強化する。	教員に、アドバイザー面談などで相談室の紹介を依頼した。学生相談室紹介のポスター掲示を増やし、カウンセラーと教員の連絡を円滑にした。	80%	教員の紹介で相談室に来談する学生や、教員に付き添われて来談する学生など、教員とカウンセラーの間でのコミュニケーションが円滑に行われていた。	相談室のデータ	学生相談室とメンタルサポートハンドブックの周知を行うことで認知向上を図る。
④ あらゆるハラスメントを防止するために、相談者が安心して相談できる体制を整える。	本学におけるLGBT学生に対する環境支援の課題及び可能性について具体的に検討した。各学科の個々の対応例を具体的に調査した。 ①両キャンパスのハラスメントに関する現行の対策や資料を収集した ②両キャンパスの過去5年のハラスメントに関する事例を収集した ③現行のハラスメント対策の改善のポイントを整理した ④他大学のハラスメントに関する対策や資料を収集した	60%	本学におけるLGBT学生に対する環境支援の課題について検討するために、LGBT学生をテーマとした研究論文を調べた。学生のニーズを調査するために学生を対象に調査を実施している論文があり、環境支援のために重要であると感じた。また、各学科で今年度LGBT学生の対応状況がどうであったかたずねることができた。ハラスメント事例収集まではできなかった。		LGBT学生からの健康診断時の配慮の申し出に対して、対応することできず悩んでいる学生がいると思われるため対策を検討する必要がある。本学における環境支援の課題を具体的に検討するためには、学生のニーズを調査する必要があると考えられる。ハラスメント事例収集を行う。
【学生生活の支援】 学生生活満足度60%以上			79.40%	令和3年度学生生活アンケート 5各支援の満足度(奨学金、課外活動、身体的健康、精神的健康の平均、経験無しを除く)	
⑤ 合理的配慮が必要な学生への支援体制を整備し、運用を行っていく。	学科の先生方の理解と協力を得られるよう、柔軟に対応できるシンプルな組織を作り、9月からの開始を目指して、前期中に態勢整備を行った。	80%	障がいのある学生に対する支援のガイドラインまでは、大学運営会議の承認を得たが、規程の承認には至らなかった。	1	大学運営会議で規程の審議ができるよう、各方面と調整する。

2022年度 全学学生委員会(学生部)

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。
【目標】 合理的配慮が必要な学生への支援体制を整備し、運用を行っていく。 【具体的な方法】 「文京学院大学障がい学生支援に関するガイドライン」および規定の運用を開始する。 障がい学生支援体制を稼働し、合理的配慮が必要な学生(LGBTを含む)が該当部署を利用し、満足のいく学修ができるようにする。 【KPI】 合理的配慮申請数
【目標】 学生同士、学生と教職員との交流を促進し、心身に安心して学生生活を送るための支援体制の拡充とその周知を図る。 【具体的な方法】 進級に伴いキャンパスが変わった学生へのアンケート結果をもとに施策検討と実施 学生の居場所・交流づくりを検討 ガイダンスの充実、配付資料活用した学生への情報提供、新入生特別研修による交流促進 教職員向けメンタルサポートハンドブックの学生支援への活用実績を調査し、その結果より、支援が必要な学生を把握して支援する枠組み作りをさらに進める。 不安や悩みの相談先(誰に相談していいかわからない、相談できる人がいない)の明確化 【KPI】 学生生活に関する意識調査
【目標】 社会状況の変化に応じながら、学生の生活に必要な経済的支援を実施する。 【具体的な方法】 奨学金情報の収集、整理、発信を行う 【KPI】 経済的困難による除籍数(率)の減少
【目標】 寮生に必要な支援を検討し、実施する。 【具体的な方法】 コロナ感染者発生時の対応マニュアルの整備 寮心得の理解促進(案内、説明) 【KPI】 途中退寮数の減少
【目標】 社会貢献・地域連携を通じて地球市民としてのアイデンティティを確立する。 【具体的な方法】 SDGsやSRHR(セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)に関わる学内での活動を支援する方法を模索する。 留学生・ウクライナ避難者に必要な支援を検討し、実施する。 国際交流委員会との連携を推進する。 【KPI】 支援数

2021年度 全学学生委員会(学生部)【結果】

PLAN(計画)	DO(実施)	CHECK(評価)	ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。 ⑥ 学生が安心して安全な学生生活を送るための支援体制の拡充とその周知を図る。	D:計画を実行しその効果を測定する。 実施状況(実施率) 30% キャンパス移動した学生の希望者に対し、オープンキャンパス委員に依頼して、年度はじめにオンラインキャンパスツアーを実施した。本郷2021年度(新入生)学生生活ガイダンスをオンラインで実施し、希望があれば参加できるようにした。当該学科学生委員の先生が対応を検討した。学生メンタルサポートブックをWebで共有し、利便性を高めた。新型コロナウィルス感染拡大を受け、大学独自の学生支援制度が設け、周知徹底を図った。新型コロナウィルス下での学習サポートの一環として、後期に学生寮一時利用を許可した。学生のサポート体制を強化した。	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。 評価 移動した学生の状況把握のため、アンケートを行った。各学科で学生のヒアリングを行うなど、学生の状況にあわせた個別の対応を行った。学生生活ガイダンスに関しては、約4割強の学生が対面で、6割弱の学生がオンデマンドにて参加した(人間福祉学科)。学生メンタルサポートブックをWebで共有し、利便性を高めた。利用状況の確認が必要。大学独自の学生支援制度が設け必要な学生に届けた。後期に学生寮一時利用を許可したが、少数ではあった。学生のニーズの調査が必要。学生たちの心のケアを日々サポートする学生同士の交流の機会(先輩との交流・友達づくり)がコロナ禍で限定されている状況にある。大学としての学生支援については、学生各人への支援と一人暮らしを始める学生への支援とを実行できたのはよかった。ただし、学生	A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる アンケート結果より学部共通で対応できそうな施策の検討 キャンパス移動した学生が安心できる「居場所」について検討する。 孤立しがちな学生が恒常的にアクセスできる交流会を学生主体で運営する必要がある。 学生生活の実情を見極めながら、必要に応じてさらなる支援を行う必要がある。
⑦ コロナ禍、アフターコロナにおける新入生特別研修のあり方を検討、実施する。	コロナ禍における、実施可能な方法を模索した。 100%	いずれも、ある一定の効果が得られている。(詳細は報告書を参照) 特別研修概要書	今年度の活動を継続し、学生の生活支援に必要な情報の提供していく必要がある。
⑧ 社会状況の変化に応じながら、学生の生活に必要な支援を実施する。(期間限定の奨学金を含む)	奨学金情報を一元化し、大学ホームページからのリンクにより学生の情報入手利便性を高めた。 100%	ホームページの奨学金情報を整理し、いつでも必要な手続きや募集中の奨学金情報を入手できるようにした。また、学生に対して、都度B'sLINKでの留学生の受け入れがなかった為、新たな対応はしていない。 HP奨学金ページ	奨学金情報を整理し、必要な奨学金制度や対応方法を継続的に検討していく。 国際交流委員会との連携を図る。
⑨ 寮生、留学生に必要な支援を検討し、実施する。	次年度の留学生を受け入れる場合、国際交流と連携を取りながら支援していく。 寮生の安心、安全な生活を確保するよう継続した寮生からの情報収集・共有を行った。 0% 80%	寮生活の規律を守らない寮生に対する学生支援グループのきめ細かい指導、新型コロナウイルス感染症対策など、安心、安全な生活を確保するための実践を行うことができた。 学生委員会寮報告資料	来年度は学生寮入寮要項に各種規程を遵守すべき目的を記した入寮生心得を追加し、寮生全員の自覚を促す必要がある。また寮内にて新型コロナウイルス陽性者が発生した際の対応に関して、マニュアル化をしていくことが課題となる。
【部・同好会の活動および大学行事の活性化】参加者前年度+2%		部・同会参加数2.2%増加 委員会参加数1.5%増加 1つのみに所属しているもの 令和3年度学生生活アンケート 13部・同好会所属 部員数一覧	
⑩ コロナ禍で部・同好会が円滑かつ安全に活動するための支援を行う。	キャンパス内での掲示、およびオンラインによる新入生への勧誘活動を実施した。 70%	クラブ・サークルの活動にも制限が多く、オンラインによる勧誘であったが、新入生が入会したクラブが複数ある。	オンラインという制限された中で実績を残してきた、そのノウハウをしっかりと継承していくことが課題である。
⑪ 学園祭等で学外者が入構する際の対応について検討し、実施案を策定する。	関係各所とも連携をとり、参加団体が増えるような工夫を考えていく。コロナ禍が続く中、文京祭・あやめ祭はオンラインのみの開催となったため、学生中心の企画・運営を旨としながら、教職員組織と協力して実施した。文京祭委員会の引継ぎについては、教職員組織が支援した。学生の部・同好会への勧誘がWeb上で展開できるよう、学生支援グループによるサポートのもとですすめた。ニューリーダー育成研修会PDCAサイクルを利用した次年度への引継ぎ等をアドバイスした。 80%	学生やゼミ教員に対する参加要請は、コロナ感染拡大時機にもかかわらず、例年通りの成果を上げた。教職員と学生との連携により、オンラインで開催であったが、You tubeでのライブ配信・特設サイトを活用した工夫を行い、多くの視聴数を獲得することができた。文京祭委員会の引継ぎは問題なく行われている。文京祭委員会への学生参加も進んだ。今年度もほとんどの時期でWeb上での勧誘のみに頼らざるを得なかった。ほとんどの団体が対面での活動ができなかったため学生生活の停滞を招きかねない状況にある。 学生委員会あやめ祭報告資料	来年度は、新型コロナウイルス感染症が収束すれば、あやめ祭は従来通りの対面開催で計画していく。またイベントも企画して、感染対策を実施した上で多くの来校者を受け入れる体制を整える。また、ゼミ教員に対する文京祭参加促進については、学生の研究成果発表など、参加の利点を訴えることに注力する。2022年度もコロナ禍が継続するなら、学生が企画を作成する段階で、教職員側のコロナ感染状況評価について知らせておくなど、コミュニケーションを密にする。文京祭実行委員会引継ぎ支援は引き続き行っていく。Webを活用した活動は今後も継続して活用できるものであることから、学生への継続的運用を指導していく必要がある。同時に、来年度の1,2年生を対象にした学生生活活動への勧誘のさらなる工夫が必要であり、ニューリーダー育成研修会における学生たちの活動状況を踏まえ検討していく必要がある。
【危機管理】 ⑫ 新たに制定された危機管理規定の下での、学生支援のあり方について検討する。	学生支援用の危機管理対策マニュアルを策定した。 80%	一部未完成であるが、ほぼ完成させた。危機管理委員会における確認が必要な状態である。 学生支援用危機管理対策マニュアル	実際に運用し、不足、不備などがなければ確認して適宜改訂する必要がある。

2022年度 全学学生委員会(学生部)

PLAN(計画)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。   【目標】 ストレス耐性をもった学生の育成とそれを補完するための永久サポート大学としての基盤を形成する。 【具体的な方法】 アサーショントレーニング、30km ウォーキング、五街道ウォーク、清流木曾川中津川リレーマラソン等について、コロナ禍でも有用な計画を策定し、実施する。 外部者の入構が制限されている中、卒業生とのコミュニケーション方法について検討する。 【KPI】 前年度参加数より10%増加   【目標】 学生会(部・同好会)等課外活動の活性化 【具体的な方法】 学生会を支援し、新入生歓迎会等による部・同好会への入部促進 各団体でのノウハウの継承 コロナウィルスの感染状況に応じてそのときどきの最善の活動方法を準備する。 【KPI】 部・同好会参加者数の維持増加   【目標】 学園祭の参加者数の増加 【具体的な方法】 出展促進、参加促進のための支援のため、早期より参加の意味について啓発する。 コロナ禍で注意すべき点や社会状況に鑑みた認識を委員との教職員間で共有し、参加者増加を模索する。 【KPI】 出展による参加者数コロナ前の半数まで回復(対面実施を行った場合)   【目標】 危機管理規程の下での、安全な学生生活の確保と学生支援のあり方について検討する。 【具体的な方法】 危機管理マニュアルの周知と運用の実施 コロナ対策の啓発活動の実施 【KPI】 課外活動中のコロナ感染者数の0、事故発生件数0の継続   【目標】 学内外での不法行為、危険行為、ハラスメントを未然に防止する。 【具体的な方法】 喫煙、無断駐車等に関する啓発活動の実施 違反者に対する個別指導の実施 ハラスメント対策の見直しが必要か検討する 【KPI】 近隣からの苦情件数の減少

2021年度 全学学生委員会(学生部)【結果】

PLAN(計画)	DO(実施)		CHECK(評価)		ACITON(次への改善)
P:目標を策定、実現するための具体的な方法を考える。	D:計画を実行しその効果を測定する。	実施状況(実施率)	C:目標とその実践の差異、実践した行動の評価・分析を行う。		A:課題や問題点についての改善、対策を行い、次への「PLAN」へ繋げる
			評価	評価の理由/課題/根拠データ等	
⑬ 学内での不法行為、危険行為を未然に防止する。	・規定、ルールの見直しの必要性について検討し、必要に応じて案を作成した。 ・規律維持に反する行為を抑制する活動を検討した	80%	ふじみ野では、キャンパス外での喫煙と違法駐車が問題となった。そのため、見回りを強化したが、抑制にまでは至っていない。	見回り報告資料	キャンパス内に喫煙所を復活させるか、禁煙サポートで喫煙者を減らすか、どちらの方向を決め、そのための対策を検討する。
【委員会活動】					
⑭ 学生生活アンケートを継続して実施し、学生からの多くの情報を入手して学生支援に活かす。	今年度から新アンケートになったため、分析などを職員の方と検討しながら進めた。 新型コロナウイルス感染拡大のため、学生生活意識調査アンケートをオンラインで実施した。 回答数の確保のため、全学年の学生を対象とした	80%	職員の方とも質問項目や結果の活用方法も検討しながら実施した。オンライン方式でのアンケート実施は効率的であった。十分な回答数が確保できるのであれば継続するのがよいと考えられる。	学生委員会議事録	コロナ禍で変化する学生生活の内実やニーズを明らかにする調査内容及び調査結果の活用方法を検討する。 アンケートの十分な回答が得られるよう、引き続き検討を進める必要がある。
⑮ 規定の整備も含め、効率よい委員会活動の実施に向けた検討を行う。	委員の先生方からの意見が必要な案件は、委員会の前にオンラインで案件を提示して意見を募り、その意見を元に委員会で審議を行った。 学生委員会に関連する規程について、見直しを継続して行なった。	100%	多様な意見が出た案件は、その場で議論して長時間の会議となることを避け、「宿題」という形で意見を募り、次回の会議でその審議を行い、効率化をはかった。	学生委員会議事録	その場で意見を募るよりも、熟慮した結果の意見を集めることができ、より良い解決策に繋がった。もちろん、会議時間も長時間となることを避けることができた。 今年度、改善点は特にはない。見直しを継続し、必要に応じて随時その改訂を行う。